

父母の会ニュース

神戸市重度心身障害児(者)父母の会

第193号

発行:平成30年4月20日

責任者: 武田 純子

TEL: 078-335-8508

FAX: 078-335-8509

E-mail: hubonokai6530

@iaa.itkeeper.ne.jp

一緒に歩む

会長 武田 純子

桜の季節からつつじの季節に変わり初夏の気配が感じられる時候となりました。

年度末を締めくくる恒例の第47回「愛のチャリティーバザー」が去る3月4日に滞りなく終了して一段落したところです。

当日は、休日にもかかわらず南本元障害福祉部長はじめ、多数の関係者の方々がバザー会場で、お声を掛けて下さいまして、ご多忙の中をご来場本当にありがとうございました。又、会員の皆さま方、ボランティアの方々には値段付けから搬入、販売、搬出まで大変ご苦勞いただき心よりお礼申し上げます。

さて、この4月1日には、東灘区本山南町に「神戸市東部療育センター」ができました。

神戸市内3か所目の療育センターであり灘区、東灘区の就学前の障害児の通園施設と診療所を併設し、障害児の早期発見・早期治療・発達の相談等の障害児支援と療育の拠点です。

ふと息子の障害を告知された～十年前を思い出しました。飲んだお乳も噴水のごとく吐き出し、何ヶ月たっても首の座らないわが子の育て方を相談する機関もない時代でしたから、このような早期発見、早期治療の機関が地域に出来たことは、障害児を育てていく上でどれだけ心強い事か・・・

国の基本方針に即して児童福祉法の規定に基づき神戸市は「第5期神戸市障害福祉計画」「第1期神戸市障がい児福祉計画」が策定され、神戸市障害者施策推進会議では声高に、重度の障害児の地域支援が必要だと言える時が来たことに安堵しております。

当会も障害児を持つお母さんの入会が増えつつありますが、障害児を地域で育てていく上でこれから先、様々な遭遇する事柄に対して一緒に悩み、喜びあい、相談にのれる父母の会でありたいと思います。そして当会の次期世代を担ってもらおう子育て中のお母さんの新しい感性を私たちがしっかりと受け止めて、「障害が重くても安心して医療が受けられ、何でも相談できる地域」になるよう行政にも一緒に働きかけていきたいと思っております。



第46回愛のチャリティーバザー

事業部長 時本 清子

『第46回 愛のチャリティーバザー』を、3月4日(日)に兵庫公会堂で開催しました。当日は天気に恵まれ、例年通りの賑わいで無事に終える事ができました。

「いこいの家」が、昨年度から新しい場所に移ったので、商品の置き場所・公会堂までの搬出・搬入の動線等を改めて検討しました。その結果、心障センターの時は、事務局が3階でエレベーターを使って商品を上げ下ろすことが必要でしたが、現在の場所は1階で道路に面しているため商品の搬入・搬出が便利になりました。

今回も、ボランティアの皆さまにお世話になりました。毎年来て下さる方、始めて来て下さった方、「来年も来るからね」と言ってくださった方。

又、商品を寄贈して下さった皆さま、朝早くから並んでいただいたお客様。会員の皆様、忙しい中値付け・商品の整理など、ご協力ありがとうございました。

あらためて皆さま方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



初めて担当しました

事務局

須磨支部 山内由香

初めてチャリティーバザーに親子で参加しました。私は売り場の備品やボランティアの受付等が担当でした。前日までの打ち合わせ・確認等の大切さがよくわかりました。当日朝早くから並んでおられるお客さんにびっくりし、ありがたく思いました。

事務局の仕事も、前日当日とも会員の方やボランティアさんの協力があり、スムーズに進みました。ありがとうございました。

古着は最初数えてみたら 60 着ほどしかなく全部売れても 6 千円か?! 古着だしと少し消極的でしたが、オープンするといきなり 600 円の生地が売れてあっという間に目標としていた 6 千円になっていました。入り口が他の売り場とは別でお客さんもちらほらでしたが、来てくださった方の半分以上、何かを買って下さいました。最後はビックリするくらいほとんど売れて色んな想いの反省をしました。

今の時代古着も中々いい感触なんだと発見があり、生地もよく売れていたのが本当に良かったです。

ポニー教室報告

昭和 49 年に発足した「ポニー教室」は 40 年以上経過しました。希望する会員に動作訓練の場を提供する当会の重要な事業の一つであり、新しい会員になってもらう良い機会の場でもあります。旧垂水養護学校、旧友生養護学校の訓練の先生方や一般校に移動された先生方のボランティアにゆだねた形で実施してきました。財源は清水基金助成金と当会の会費で補っています。

会場は、西部地区は神戸市立いぶき明生支援学校、中央地区は神戸市立友生支援学校、東部地区は友生支援学校住吉分校で実施しております。

ポニー教室担当より今年度の予定と昨年度の実績を下記のように報告いたします。

・今年度日程(H.30.4～)

	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中央	5/3	6/2	7/7	9/1	10/6	11/3	—	—	2/2	3/2
西部	5/19	6/16	7/21	9/15	10/20	—	12/15	1/19	2/16	3/16
東部	—	—	—	—	—	—	12/8	—	—	—

・昨年度実績(H.29.4～)

(人数)

		5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中央	スタッフ	21	23	15	17	13	12	—	—	12	8
	利用者	9	14	13	14	12	10	—	—	11	9
西部	スタッフ	18	26	19	—	16	17	11	15	15	16
	利用者	18	18	14	—	13	12	9	12	12	15
東部	スタッフ	—	—	—	—	—	—	—	12	—	—
	利用者	—	—	—	—	—	—	—	9	—	—

※ポニー教室登録者数は 60 名です。





新入会員の懇談会に出席して

灘支部 藤田雅子

子どもが昨年4月に社会人になりました。学校に通っていた間は、PTA活動を通して意見や要望を伝える場がありましたが、学校を離れるとその場がありません。その場を探していたところ、“重心父母の会”があることに気がつきました。昨年7月に入会を決めました。

1月18日(木)にいこいの家で、入会したばかりの方を対象に父母の会の歴史と自己紹介の中で新入会員それぞれの思いを知る機会がありました。

- ・地域の小学校への働きかけ
- ・介護の時間がほとんど
- ・グループホームがない etc.

その場に集まった方たちが、それぞれ子どものために、家族のために、大変な思いをしながら、でも自分たちだけでなく、多くの方たちと語り合い、一生懸命に力を尽くしていることをお聞きしました。私たちの“困っている”“なんとかかしたい”“こうあってほしい”の声を集めていけたら、協力しあえたら、障がいがあっても「人としてのより良い生活」を目指していけるのでは…と思いました。

この会は“父母の会”という名称ですが、“本人”の入会者もこの日に参加されていました。障がいがありながら、自分でできることはしっかりご自分でいき、楽しい時間も持ちながら社会の中で活動的に生活されています。“本人”の将来像を目のあたりにして、希望を持つことができます。“本人”の声を出していくことも大切だな、とも思いました。

障がいのある方が生きやすい社会にはまだまだ課題はたくさんあります。多くの方と共に“障がい者にとって生きやすい社会は誰にとっても生きやすい社会”を目指していけたらと思います。



これからお世話になります

4月4日(水)午後神戸市保健福祉局・こども家庭局・神戸市社会福祉協議会からいこいの家に新部長以下大勢であいさつに来られました。

神戸市保健福祉局に平成30年4月1日から新しく着任されました

神戸市保健福祉局障害福祉部部長	山端 恵実氏
就労支援担当部長	高見 俊雄氏
障害者支援課課長	奥谷 由貴子氏

神戸市こども家庭局に平成30年4月1日から新しく着任されました

神戸市こども家庭局局長	森下 貴浩氏
子育て支援部長	豊永 太郎氏
子供企画育成部こども家庭支援課課長	吉井 良英氏
家庭支援調整担当課長	保田 恵子氏

神戸市社会福祉協議会に平成30年4月1日から新しく着任されました

神戸市社会福祉協議会理事長	雪村 新之助氏
---------------	---------



短期入所ユニットのご紹介

社会福祉法人 芳友 にこにこハウス医療福祉センター
短期入所ユニット「はびねす」

2013年（平成25）年度に、当センター外来利用者様に対して「在宅支援サービスの充実に求める事」についてアンケート調査を行い、短期入所サービスの充実に對するニーズが高い結果を得ました。職員からの短期入所サービス向上への強い想いもあり、2014（平成26）年度から「短期入所プロジェクト」としてユニット化に向けて検討を重ね、2016（平成28）年度に国および神戸市からの補助金の協力のもと改修工事を行い、2017（平成29）年度に短期入所専用ユニット（はびねす）の開設にいたりしました。短期入所サービスの利用定員は開設時には入所エリアで7名と「はびねす」で8名の計15名でしたが、その後の調整により現在は入所エリアで4名と「はびねす」で10名の計14名で、様々な状態のご利用者様の様々なニーズにお応えできるよう努めています。

2017年度（平成29年度）の利用状況

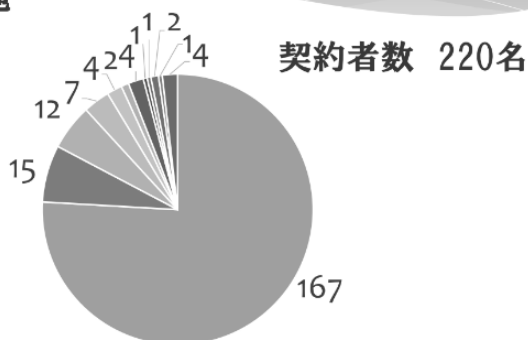
- ・契約者数 272名
 - ・平均年齢 19.5歳(最年少2歳～最高齢57歳)
 - ・延べ利用人数 637名
 - ・延べ利用日数 2054日
 - ・平均利用日数 3.2日
 - ・緊急受入 15件
- ※ 2018年3月31日現在

「はびねす」を運営するのに職員配置等を試行錯誤しており、まだ毎日フル稼働という訳にはいかず、皆様にご迷惑をお掛けしています。また、医療的ケアの高い方の受け入れの制限等、課題はまだありますが「よりよいサービス」の提供を目指し、全職員一丸となって取り組んでいます。今後も「にこにこハウス短期入所をよろしく願い致します。

短期入所の状況について

●居住地

平成30年3月31日現在

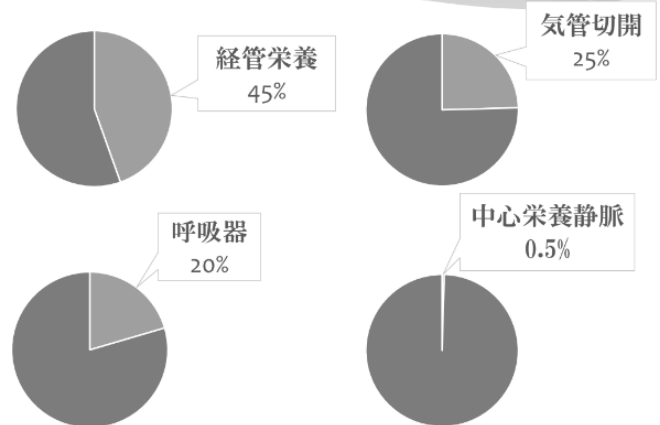


- 神戸市
- 西宮市
- 宝塚市
- 加古川市
- 淡路市
- 稲美町
- 明石市
- 高砂市
- 三田市
- 三木市
- 奈良市
- その他



短期入所の状況について

●平成29年度 短期入所 医療ケア率 (延件数%)



東灘区自立支援協議会の勉強会

東灘支部 新川由美子

東灘区自立支援協議会 暮らし部会は、平素から取り組んできた避難所運営についてさらに具体的に考えるため、数か月前から準備して、静岡県で考案された HUG(避難所運営ゲーム)を 3 月 9 日(金)に東灘区役所大会議室で、防災福祉コミュニティの皆さんと勉強しました。

じゅうしん父母の会 東灘支部も参加しました。

HUG(避難所運営ゲーム)とは？

日本は、世界有数の地震国であり、いつどこで大地震が発生しても不思議ではありません。大地震が発生した場合、家屋の倒壊や津波、火災、山・がけ崩れなどにより、被災した多くの人々が避難所での生活を強いられることとなります。

もし、あなたが避難所の運営をしなければならない立場になったとき、最初の段階で殺到する人々や出来事にどう対応すれば良いのでしょうか。

避難所 HUG は、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

プレイヤーは、このゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、思いのままに意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。

HUG は、H (hinanzyo 避難所)、U (unei 運営)、G (game ゲーム) の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。

避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けました。

(静岡県地震防災センター)

神戸市ヘルプマーク・カード導入

「ヘルプマーク」とは、義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなるよう、作成したマークです。

「ヘルプマーク」について知ってもらうことは、配慮を必要とする人が、どのような支援を必要としているのかを知るとともに、理解するためのきっかけとなります。配慮を必要とする人ももの人も安心して暮らすことのできる「共生社会」の実現のために、みなさんのご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

「ヘルプマーク」「ヘルプカード」について神戸市からのチラシを同封しています。お読みください。



こんにちは じゅうしん須磨寺 です！

萌友(近くの事業所)の「出発式」のライブにご招待いただきました！



春からの新しい入所者もなく、利用者14人・職員9人で新年度を迎えました。その初日(2日)、近くの事業所・萌友の「出発式」の第2部のライブにご招待いただき、みんなで参加しました。

このライブのためだけに東京から駆けつけてくれたという田ノ岡三郎さん(アコーディオン)とmachiko*mauiさん(ウクレレ・ヴォーカル)。萌友の利用者・保護者・職員のみなさんと一緒に、楽しい時間を過ごさせていただきました。

※ライブのお礼として、おふたりにポーチとペンケース(さをり織り)をお渡ししました。



【1月～3月の活動から】

HUG+ (ハグ・プラス) 展

第1回「こうべ障がい者芸術フェスタ」に出品した作品が入賞しました。会場で、久元喜造神戸市長が声をかけてくださいました。(1月)



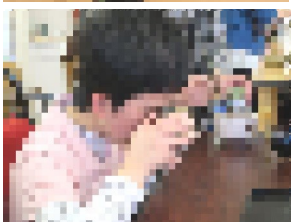
クッキング

チョコレートフォンデュ。バナナ・いちご・マシュマロなどにチョコをつけて食べました。(2月)



お茶席

ボランティアの秋本菊江さんの指導で、お抹茶をいただきました。(3月)



「じゅうしん神戸(法人)」「じゅうしん須磨寺(事業所)」ご支援をお願いします

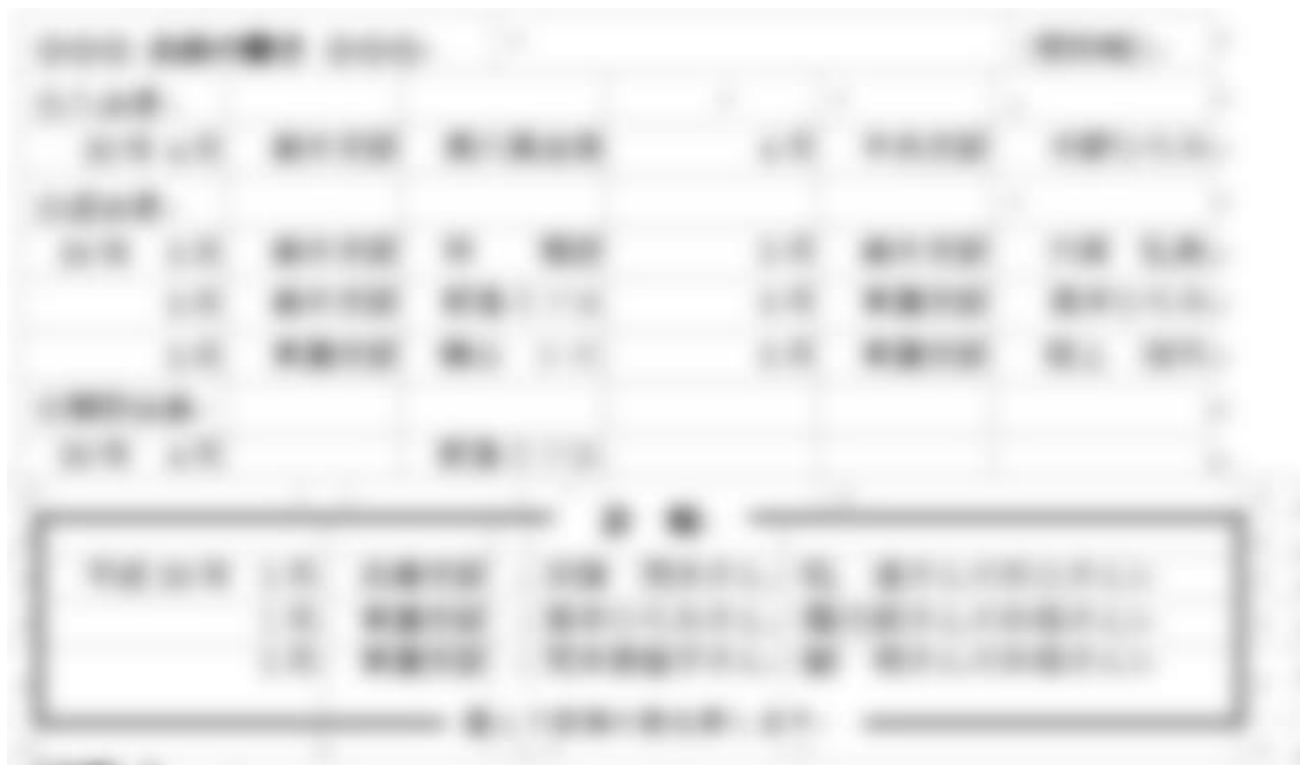
◎法人の会員になって支えてください 正会員：5,000円/年 賛助会員：2,000円/年

郵便振替口座：00990-7-254520 加入者名：特定非営利活動法人じゅうしん神戸

◎ボランティアとして支えてください お大師さんなどのバザー・昼食配膳・片づけ など

◇◇◇ お知らせ ◇◇◇

- ・第52回 総会は、5月25日(金)神戸市立総合福祉センター4階会議室で開催します。
- ・初夏のバザーは6月26日(火)に総合福祉センター1階体育室で開催します。準備や当日の販売・片付けなど、ご協力よろしくお願ひします。



【お願ひ】

※書き損じの郵便はがきを「じゅうしん父母の会」へ提供していただくと助かります。

青い鳥郵便葉書

受付期間：2018年4月02日(月)から同年5月31日(木)まで

配付期間：2018年4月20日(金)から同年5月31日(木)まで

窓 口：最寄りの郵便局(簡易郵便局を除きます。)

配 布：2018年4月20日(金)以降



神戸市立心身障害福祉センター跡地選定事業者が決定！

神戸市が3月末に選定事業者を発表しました。

- ・事業者 公益財団法人『中山視覚障害者福祉財団』
 - ・施設名称 新記念会館
 - ・運営開始予定時期 2021年2月頃
- 県内の視覚障がい者のトータルサポートを神戸市や各支援団体と協力実施する場の提供

編集後記

年度末の重心父母の会の最大事業『第46回愛のチャリティーバザー』が無事終わりました。本当にありがたく感謝いたします。

4月になり、総会の準備が始まっています。今年度もよろしくお願ひします。

編集委員